

水痘(水ぼうそう)

1 水痘(水ぼうそう)はどんな病気？

- ① 水痘・带状疱疹ウイルスによる発疹性の感染症で冬から春に流行しますが、年間を通じて患者が発生します。
- ② 患者は小児に多く、9歳以下での発症が90%以上と言われています。
- ③ 感染症法では定点把握対象の五類感染症に分類され、指定された小児医療機関が届出基準に基づいて診断した場合、毎週保健所に届出がされることになっています。
- ④ 学校保健安全法では、全ての発疹が痂皮化(かさぶた)するまで、出席停止となります。ただし、学校医やかかりつけ医の判断で、登校可能な場合や出席停止が延長される場合もあります。

2 どんな症状があるの？

- ① 潜伏期間は2週間程度(10日～21日)で発疹の出現する前から発熱がみられ、典型的な症例ではかゆみを伴う発疹が頭皮、体や手足に現れ全身に広がります。発疹は紅斑(赤み)から始まり丘疹(ふくれ)、水疱(水ぶくれ)を経て最後は痂皮化(かさぶた)します。
→このような症状が現れたら水痘を疑い、早めに医療機関を受診しましょう。
※受診をする前に医療機関へ連絡をして症状などを伝えてください。
- ② 小児では熱性けいれん、肺炎、気管支炎などの合併により重症化することがあります。
- ③ 成人ではより重症になり、肺炎や脳炎など重篤な合併症を起こすことがあるので注意が必要です。

3 どうやって感染するの？

- ① 感染経路は空気感染・飛沫感染(患者の唾液や鼻汁がくしゃみや咳で飛び散り、吸い込むことで感染)・接触感染(患者の手や触ったものを介して、口に入れたり鼻を触ったりすることで感染)です。

4 予防方法や対処方法は？

- ① ワクチン接種が予防に有効です。水痘ワクチンは定期接種になっていますので、対象年齢(1歳以上3歳未満、2回)になりましたら、忘れずに接種しましょう。
- ② 水痘が流行している家庭内や施設での予防では、72時間以内の水痘ワクチンの緊急接種や抗ウイルス薬の内服による発症防止・軽症化が期待できます。
- ③ 水痘に感染した場合は、感染のおそれがないと診断されるまでは人との接触を出来るだけ避けることが大切です。
- ④ 部屋の換気をこまめに行う・手洗いの実施・感染した人とのタオルの共用を避ける・かかったことがない人は部屋を別にするなどの対策をしましょう。
- ⑤ 発疹を掻いて皮膚を傷つけないよう、手を清潔にし、爪を短くしましょう。
- ⑥ お風呂で体を温めるとかゆみが強くなるので、シャワーがおすすめです。また、入浴の順番は最後にし、使用後は換気をしましょう。